



大天白公園の藤まつり

4 月下旬から 5 月上旬にかけて、大天白公園では、紫と白の見事な藤が咲きます。

田山花袋の小説「田舎教師」の主人公のモデルとなった小林修三の墓(建福寺)や、
武州藍染のまちとして栄えた羽生市を散策してみましよう。

日 時 平成 30 年 4 月 26 日(木)

集合場所 大宮駅(JR 宇都宮線小金井行きホーム中央あたり)

集合時間 午前 9 時 10 分 (9 時 22 分発乗車)



行程表 大宮.....久喜.....羽生

9:22 9:43 着 9:53 発 10:12 着

羽生.....建福寺.....大天白神社.....赤坂(昼食)

徒歩 10 分 徒歩 30 分 徒歩 15 分

.....市民プラザ.....羽生.....久喜.....大宮

徒歩 15 分 徒歩 15 分 15:24 15:43 着 15:50 発 16:11 着

※ 昼食 寿司ランチ (並) 税込 1,620 円 事前注文

※ 市民プラザでは清水卯三郎の像と藍染の店があります



羽生の偉人 清水卯三郎
幕末から明治にかけて西洋の技術などを日本にもたらした羽生市出身の商人です。1867年のパリ万博博覧会に日本で唯一の商人として参加し、日本の文化を世界に紹介しました。また、「かな文字論者」としても功績を残しました。

武州藍染



羽生地方では、利根川流域の沖積土が藍や綿の栽培に適していたことから、天明年間(1781~1789)に藍染めが広まり、多くの農家が青縞を織るようになりました。明治40年代の最盛期には、紺屋は300軒にも及び、武州の一大産業となりました。今でも人々に愛される「青縞」は、後世へと伝えていきたい織物です。

担当 清水 090-4210-7159

佐藤 090-8594-6818